

## 2018年度 大学自己点検・評価(社会学部)自己点検・評価総括用シート 1

## ＜社会学部の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	建学の精神にもとづいた人格形成を促すとともに、社会・文化・人間への深い関心を育成し、生涯にわたる主体的・能動的な学習態度を育成する。			この教育目標は、その達成度を直接的かつ数量的に測定できる種類のものではない。したがってこの教育目標の達成度を評価する指標は、むしろこの教育目標を達成するための、(正課教育内外を通した)さまざまな活動の向上や環境の整備を示す指標によって、代替すべきものである。
目標2	幅広くかつ系統的な社会学的知識・思考・技能にもとづいた、社会で求められる「社会学的想像力」を育成する。	専攻分野と卒業論文の適合率	A: 80%以上 B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	2018年度目標値 C 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標3	フィールドワークを含む社会調査についての基礎的な知識と技能にもとづいた、社会で求められる「社会調査の実践力」を育成する。	全実習科目履修者に対するフィールドワークを行う社会調査実習履修者数の比率	A: 40%以上 B: 30%以上40%未満 C: 20%以上30%未満 D: 20%未満	2018年度目標値 A 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A
目標4	グローバル化した現代社会で活躍できる人材を育成する。	協定に基づく海外への派遣学生数とフュージョン(融合)プログラム参加学生数の総数	A: 100名以上 B: 85名以上100名未満 C: 70名以上85名未満 D: 70名未満	2018年度目標値 B 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A

## &lt;2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括&gt;

## 総括1 &lt;3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと&gt;

2011年度より取組みが始まった「学生交流プロジェクト～ピア・サポート～」のプログラム参加者数からは大きな成果が見られた。学生が学生の立場に立って考え、プログラムを企画・運営することで、学生のニーズに合ったプログラムを実施できていることが参加者増に繋がったと考えられる。とりわけ、入学式直前の新入生に対し交流会を開くことで入学の不安を少しでも解消するといったプログラムも2017年度末より始まり、好評を得ている。

また、共同学習室での学習会の開催件数において、実施数が昨年度と比べ減少している要因は、近年参加者数が見込めていなかった「MANABIL」という大学院生による勉強会を、その趣旨と実状に叶った場で実現するため、共同学習室での活動ではなく大学院進学相談会で行うよう変更したことにある。このように、検証を重ね、学生のニーズに合った形で提供できるように一定の期間で見直しを図っている。

留学プログラムにおいては、短期プログラム(語学研修、英語中期留学など)派遣者数は伸び率が高いが、交換留学派遣者数の停滞が課題となっている。これについて、2015年度より交換留学候補者の英語力を高めるためにベルリッツ・ジャパンと連携し講座を開き、志願者のTOEFLのスコアを伸ばす施策を継続的に行っている。さらに、2017年度には学部独自の奨学金制度を開始し、費用面での不安を軽減する施策を開始した。他にも、2016年度より台湾にある高雄第一科技大学との融合プログラムを開設し、海外の学生と共に社会学を学べる機会を提供している。これらの施策により今年度の留学派遣者数は昨年度実績の125%を見込んでおり、交換留学派遣者を含め増加傾向にあると言える。

## 評価専門委員・所見記入欄:

## ■総括1について

- ・ 留学派遣者数が伸びている。学部独自の奨学金制度を開始するなど、学生目線での改善策が講じられている。(A)
- ・ いずれの教育研究目標についても、各々に対する着実な改善活動が行われ、成果が出てきていることがうかがえます。今後も引き続き最終目標の達成に向け、学部内でのPDCAサイクルを運用していくことが期待されます。(B)
- ・ 問題点の発掘と改善が臨機応変になされていて、評価できる。(C)
- ・ 多岐に渡る取組みで成果が出始めていることは評価できます。今後も他学部の参考になるような先駆的な取組みが期待されます。(D)
- ・ 様々な取組みについて、課題把握やその対策を進めている状況が伺えます。今後の更なる取組みに期待します。(E)
- ・ 一研究演習あたりの学生数の多さを考えると、教員が学生一人一人に対して細かな指導を行うことは非常に難しい。  
学生同士による共同学習は、教員が行う指導を補完する効果や相乗効果を期待できるものであり社会学部にとって重要です。今後は共同学習室の更なる活用が望まれます。(F)
- ・ 良好な進捗状況であり評価できます。更なる伸展が期待されます。(G)
- ・ Aを達成した事項の、今後の目標の向上が期待されます。(H)